

# かけはし

第46号 平成12年9月13日発行  
千代田区教育委員会



いろいろな仕事があるんだね。(一日図書館員)

主  
な  
記  
事

☆「中学校教育検討会報告」が提出されました

☆道徳授業地区公開講座に参加を

「図書館子どもまつり」で本の整理  
やお客さんの受付などの仕事をや  
りました。はじめはドキドキした  
けれど、一日楽しくできました。

\* 教育広報「かけはし」は資源保護の  
ため再生紙を使用しています。

# 千代田区から始まる新たな中等教育の道 「中学校教育検討会報告」 が提出されました。

千代田区教育委員会では、これからの中学校教育のあり方を検討するため、平成10年9月に中学校教育検討会（座長 今井啓一氏・帝京平成大学教授）を設置しました。検討会は、現在の中学校教育の抱える課題を整理した上で、21世紀に向けた中学校教育は、「子どもたちの夢や希望を育てる魅力ある中学校」として実現すべきであるとして、平成11年7月には検討の方向性を示した「中間報告」を提出しました。

その後、「中間報告」で示された方策の具体化にあたり、公立の中高一貫校、特色のある教育実践校を視察するとともに、平成11年10月には区内の小・中学校児童生徒、保護者、教員を対象にしたアンケート調査を実施しました。

また、平成11年12月には、「中間報告」に示された中高一貫教育導入についてより専門的、実務的な調査研究を行い、千代田区として最も効果的な教育システムを構築するため、中高一貫教育検討専門部会を設置しました。

さらに、検討会では、「中間報告」や中学校教育全般について、区民、保護者及び学校関係者等の意見を幅広く伺うため、平成12年2月に保護者や学校関係者との意見交換会を開催し、4月には一般区民を対象にした公聴会を開催しました。

こうした経過を経て、平成12年8月1日、「中学校教育検討会報告」が今井座長から提出されましたので、その概要をご紹介します。

※一部の報道では中高一貫校の設置場所や時期について憶測に基づく記事がありました。これらは今後の検討課題であり、現時点では白紙の状態です。

## 報告の提出に当たって

千代田区中学校教育検討会

座長 今井 啓一

12歳から18歳と言えば人格形成の過程で極めて重要な時期であると同時に、思春期という微妙な成長段階にあります。この6年間の中間に高校受験というハードルがあるため、中学に入って間もない時期に進路を考えなければならぬ。高校でも同じようにあわただしい3年間になります。今の学校制度ではやむを得ない一面ですが、この3年刻みの中等教育の期間を少しでも本来の目的、つまり、個性や適性を模索しながら、それに沿って過ごす一つの方法になるのではないかと判断から千代田区立中高一貫校の創設を提言しました。

個性、適性に応じた教育とは、言い換えれば画一、平等からの脱皮です。12歳を過ぎれば、だれにでも得手、不得手とか、好き、嫌いができ

るものです。スポーツは何でもこなすのに勉強は苦手、数学や理科は得意なのに英語や国語は嫌いなどという生徒が増えてきます。6年間あれば、苦手になった動機などを時間をかけて調べ、やる気を持つようにさせる可能性が広がります。どうしても適性がないのなら、得意な分野をどんどん伸ばし、不得手な科目にも何とか取り組もうとする気持ちを持たせるといふように、個性と適性に応じた教育をする余地が生まれます。



今井座長

みんな同じでなければならぬ教育はみんなに不平等を強いる結果になります。できない子を置き去りにしてはなりません、でき

る子を待たせておいたり、目立たないように、あるいは頭を押さえつけるような教育はみんなに不満を持たせます。勉強はもちろん、スポーツでも何でも、伸びる芽を育てる心遣いが必要です。何でもこなせる子なら、そのまま伸ばしていくのが本来の教育のあり方です。

一方、「生きる力」という言い方を10年近く前から聞いています。

その前は「新しい学力観」という言葉でした。しかし、学校現場ではこのキャッチフレーズは根づいていません。スローガンを掲げるだけでは何事も具体的に進みません。そこで、今回提言した中等教育学校では「生き方」という科目を設けることにしました。学歴とか大学のブランド名などにこだわらないで、一人一人が手ごたえのある生き方を考える授業内容にしたいものです。詳細はまだ決まっていますが、生徒が「生きる」との意味について考えるきっかけになればと考えています。

今井座長から井澤教育長に

手渡される報告書



## 中学校教育検討会

### 最終報告を受けて

千代田区教育委員会

教育長 井澤 一弘

千代田区教育委員会はただ今、今井座長から中学校教育検討会最終報告を頂戴しました。

平成10年9月の検討会発足以来、2年間にわたる熱心なご協議の結果、ここにその成果を得ることができました。

千代田区におけるこれからの中等教育のあるべき姿を、その改善の視点と基本的な在り方に基つき、「千代田区立中等教育学校（6年制中高一貫教育校）の新設」と「在

来型中学校の充実」という形で提言していただき、心より感謝いたします。

ご承知のとおり法律が改正されて、平成11年度から中高一貫教育校の設置が可能となりました。現在の中学校教育を巡るさまざまな課題を解決するためには、中高一貫教育校の新設は、在来型の中学校教育の特色化などさらなる充実と共に、大変魅力的な選択肢であります。なかんずく6年制の1つの学校と位置づける中等教育学校は、設立可能な3タイプの中で中高一貫教育校としての特色を最も強く生かせるため、これを採用すべきとの、思い切った提案となっております。



井澤教育長

また、千代田区の中学校がそれぞれに特色をもつことになれば、千代田区全域を対象に生徒・保護者による学校選択を可能にする必要が生じるのは当然であり、この点についても報告書に記載されております。

文部省は全国に中高一貫教育校500校の設置を目指していますが、現時点では私立校を加えても17校です。こうした状況の中、千代田区が区立の中高一貫教育校を設立すべきであるとの検討会報告は誠に時宜を得たものであり、多くの区民の方々にご支持いただけるものと考えております。

教育委員会は今後、学校関係者や区民のみならずこの報告書の内容を十分に説明し、ご理解をいただくとともに、区長部局と協議してできるだけ早く千代田区としての方針を定め、21世紀に生きる子供たちの夢と希望を育てる、魅力ある中学校の創造を進めてまいります。

# 「中学校教育検討会報告」概要

## I 中学校教育改善の方向 - 中等教育改善の視点と基本的なあり方 -

改善の視点	◇ ふれあいとコミュニケーション ◇ 個性尊重	◇ 「ゆとり」ある教育課程 ◇ 地域に学び、地域に役立つ
基本的なあり方	主な方策	
豊かな人間性や社会性を はぐくむ	・「聞く、話す、書く」という表現力を確実に身につける授業の実現 ・自然体験、社会体験等を取り入れた教育活動の実施	
創造性を育てる	・問題意識を持ち、その解決の方法を自ら考え、選択して解決していく教育方法の開発 ・自己選択・自己責任の大切さを身に付けるための主体的な学習態度の育成	
基礎・基本の定着と個性 尊重の教育を推進する	・体験的な学習や問題解決的な学習を通して基礎・基本を身に付ける授業の実施 ・習熟度別学習の実施や生徒の興味・関心に応じた選択教科の導入	

## II 提言 - 新たな中等教育の創造 -

### (1) 千代田区立中等教育学校（千代田区が設置する6年制中高一貫校）の新設

6年間の「ゆとり」ある生活の中で、生徒一人ひとりの個性や能力を一層伸ばし、地域の教育力を活用したさまざまな教育活動を展開して、教養豊かな地域の人材を育てる。

特色	主な具体的な内容・方法等
入学者決定方法	・千代田区立小学校卒業予定者のうち、希望する者は原則として全員入学を認める。ただし、定員を超過した場合は適切な選考を行う。
32人学級 /全課程2学期制	・前期課程（現在の中学校段階に相当）、後期課程（現在の高等学校段階に相当）とも1学級32人とし、1学年の定員は128人（4学級）とする。 ・授業時数の確保や学校行事・部活動の充実等を図るため2学期制（4月～9月、10月～3月）とする。
進路選択を応援する多様な科目設定	・後期課程を単位制（全日制）とし、生徒一人ひとりの自己実現に向け、社会・生活系、科学系、情報系、言語・コミュニケーション系により科目を設定する。
「生き方」の授業	・進路選択を支援するため、「生き方」（仮称）の授業を設定する。
海外留学や大学・専修学校との提携	・後期課程では、条件を満たせば、外国留学も単位認定する。また、一部の科目では大学や認可専修学校等での履修を単位認定する。
ゆとりの中の学校行事や部活動	・6年間を通じた学校行事や課外活動の中で、自己の可能性を開く。

### (2) 千代田区立中学校（在来型3年制中学校）の充実

基礎・基本の定着や個性を尊重する教育を推進し、生徒一人ひとりのさまざまな進路希望に対応できるきめ細かな指導、特色ある教育活動を積極的に推進する教育課程を編成・実施する。

特色	主な具体的な内容・方法等
生徒の多様な進路に対応するきめ細かな指導	・習熟度別学習やチームティーチング（複数の教師が協力して学習指導を行うこと）を実施する。 ・選択教科の種類や内容を充実する。
特色ある教育活動を積極的に推進する	・生徒や地域の実態等に応じた特色ある教育課程を編成・実施する。（例、国際理解教育、情報技術教育、健康教育とスポーツ活動、芸術・伝統文化等）
地域に開かれた学校づくり	・教育活動への地域人材を導入する。 ・地域と一体となった教育活動を実施する。

## ※中学校の適正規模・配置及び学校選択の自由化

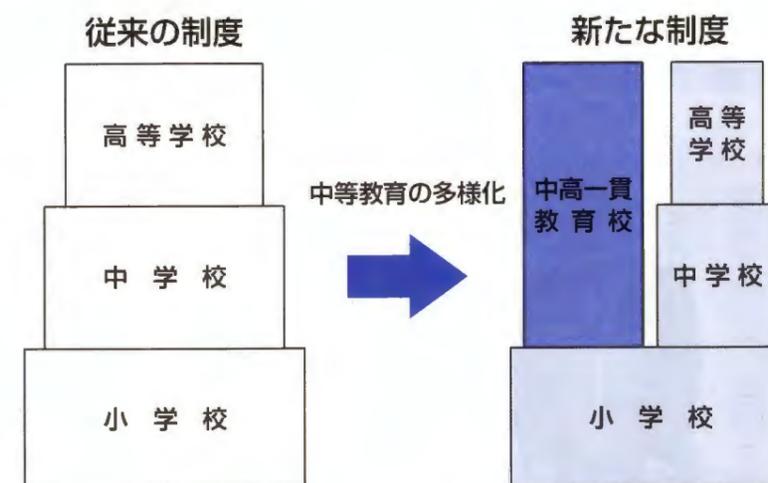
将来にわたって安定的な学校教育の展開を維持できる学校規模を想定し、区立中学校への就学予測生徒数をもとに、中学校の適正な学校数と配置を決める。また、生徒や保護者が複数の選択肢の中から中学校を選ぶよう学校選択の自由化を進める。

### (3) 学校支援策

学校支援策	主な具体的な方策
基礎・基本の定着と個性尊重の教育推進のための支援	・習熟度別学習、チームティーチングの実施、選択教科の充実のための教育環境整備と人材確保 ・コンピュータ等の各種教育機器の充実
特色ある学校づくりを推進するための支援	・保護者、生徒による学校自由選択制 ・特色ある教育課程を編成・実施する学校を支えるための教育環境等の整備・充実
すぐれた人材の確保と教員研修の充実	・教員の待遇改善や研修機会の拡大 ・資質向上のための多様な研修や研究開発の工夫と充実
生徒の心と体の健康問題に応じる手だてづくり	・常駐のスクールカウンセラーや心の教室相談員等の配置 ・カウンセリングルームの整備

## ＜＜ 中高一貫教育について ＞＞

中高一貫教育は、これまでの中学校・高等学校に加えて、生徒や保護者が中高一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進するもので、学校教育法等の改正により、平成11年4月から実施されています。



### ▽中高一貫教育の3つのタイプ

形態	中等教育学校(同一設置者)	併設型(同一設置者)	連携型(異なる設置者)
概要	一つの学校として一体的に中高一貫教育を行なう。6年間の課程は、前期課程（3年）、後期課程（3年）に区分されている。	高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続する。	既存の市町村立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施する。
教育課程の特徴	教育課程の編成に独自の工夫と特色を出せる。法的な特例がある。	中学校課程と高等学校課程にはっきり分かれるため、中等教育学校よりは教育課程の編成に独自性を出しにくい。法的な特例がある。	教育課程の編成に独自の工夫と特色を出しにくく一貫校という意味合いが薄くなる可能性がある。法的な特例はない。

「中学校教育検討会報告」の全文は千代田区ホームページでご覧いただけます  
URL / <http://www.city.chiyoda.tokyo.jp>

問合せ 指導室  
内線 3120・3168

# 2000 国勢調査

平成12年10月1日(日)

9月下旬から調査員がおうかがいいたします。

## ●国勢調査に協力を。

今年是全国一斉、国勢調査の年です。この調査結果は住宅・福祉・雇用など、私たちの暮らしの様々な分野に役立てられる基礎データとなります。

## ●調査員がうかがいます。

調査員が各世帯毎に調査票を配付・回収にうかがいます。調査内容は、男女の別、出生の年月日、就業状況、など22項目です。記入された内容は、統計の作成以外の目的に使用されることは絶対にありません。

問合せ 国勢調査実施本部調査課  
(地域振興課統計調査係)  
電話 3264-0151 内線 2321~3

がま口や札入れなど、主にお金を入れるものを総称して「財布」といいます。財布という呼び名自体は江戸時代になってからで、それまでは金袋や銀袋と呼ばれていました。

そもそも、紙などを懐に入れて持ち歩くようになったのは奈良時代からと言われ、その後、袱紗で包むようになり、次第に袋物の形が一般的になり、木綿や麻の裂地を二つ折りにして縫い合わせ、口に紐を通す部分を付け紐で引き絞ったものを、腰に下げるようになり、江戸時代には、鼻紙袋・三徳などといって硬貨の他に印判や葉なども納めるようになります。明治元年頃になると、がま口が作られ、明治



財布：牛革製



小銭入れ：牛革口金真鍮

二十年頃には、袋物の中で最高の生産量を誇っていました。また、紙幣の普及によって札入れも作られるようになりました。さらに、がま口に紙幣入れや小銭入れが付いたタイプものが現れ、現在私たちが使用しているものに近い形のもものが現れます。

## 生活用具のうつりかわりーさいふー



手をつなげば恐くないよ (保田：麴町小)



山頂でも元気一杯。霧の金時山にて (箱根：千代田小)



巖からの素晴らしい眺望 (軽井沢：麴町中)



遠泳にチャレンジ (保田：練成中)



精鋭のメンバーが勢ぞろい (外濠グランド)



はっけよ〜い! (納涼相撲大会：芳林公園)

## がんばった夏休み

### 道徳授業地区公開講座に参加を

千代田区では、東京都教育委員会と連携して平成十二年度道徳授業地区公開講座を開催します。

この講座は、学校関係者と保護者・地域の方々をはじめ広く区民の皆様が道徳の授業を参観していただき、学校における道徳教育のあり方や家庭・地域社会における心の教育のあり方、連携について相互の理解を深めることを目的に開催し、本区の道徳教育の一層の充実を目指します。

趣旨をご理解いただき、多くの皆様の参加をお願いします。(参加について事前の申込みは不要です。当日、直接会場にお越し下さい。)

#### 第一回

平成12年10月23日(月)  
九段中学校(富士見一ー一六)  
午前8時35分~10時35分

☎(3263) 2091

#### 第二回

平成12年11月15日(水)  
九段小学校(三番町十六ー一)  
午後1時40分~4時

☎(3263) 0564

#### 第三回

平成12年11月24日(金)  
お茶の水小学校(猿樂町一ー一)  
午後1時40分~4時

☎(3292) 0414

※いずれも授業公開及び懇談会  
(三学期にも開催を予定しています。)

### 今川中学校

#### 元の校舎で二学期をスタート

今川中学校は、校舎改修工事のため内神田社会教育会館の仮校舎で授業を行っていましたが、予定通りに工事が進み、改修した鍛冶町の元の校舎で二学期の授業を始めました。

工事期間中は、ご協力いただきありがとうございました。

なお、外構工事、非常階段の設置工事などが残っていますが、二学期中に終了の予定です。

### 平成12年度

#### 千代田区立小・中学校陸上競技大会

小学校5・6年生の児童、中学校の生徒全員と姉妹都市の嬉志村から選抜された中学校生徒が一堂に会し、日頃の練習で鍛えた体力や技を競い合います。

#### 日時 平成12年10月3日(火)

午前8時30分~午後4時00分

#### 場所 国立霞ヶ丘競技場

JR千駄ヶ谷駅下車

◆なお、3日午前5時55分~6時00分の間にニッポン放送で開催の有無が放送されます。  
(1242kHz)  
保護者の皆様は、ぜひ参観・声援においで下さい。

## 通級指導学級のご案内

通級指導学級は、通常の学級で学ぶ子どもたちの中で、特別な指導を必要とする児童を対象に、一人一人に応じた指導を行います。通級している時間帯は、在籍している学校の授業の一部として認められます。千代田区では、千代田小学校に設置しています。次のような心配のある方はご相談ください。

●文字や数など学力に心配がある、集団生活になじめない、家では話をしたが、他では思うように表現できないなどの児童を対象に、自信をもって生き生きと学習や生活ができるようにサポートします。

●発音が正しくできない、どもる、ことばの発達がおくれている、コミュニケーションがうまくとれない、自分から話そうとしないなど、話す・聞く面で不安のある児童を対象に、ことばについてどんな問題があるか調べ、発音・話し方や、言語の指導を行います。

### 通級の手続き

相談受付は随時行っています。担任の先生をおして、または直接ご連絡ください。

### 連絡先

学務課学務係 内線3131~2  
千代田小学校  
☎(3256) 8987 (通級学級)  
☎(3256) 6768 (職員室)

# 随想

## きょういく

「仏作って魂入れず」という諺がある。文部省や教育委員会、教育制度の改革や学校の整備に力をいれ「仏」を作った。これから魂を入れるのは一人一人の教員である。

教員一人一人にこの自覚がなければ、文部省や教育委員会の努力は水泡となり、ゆとりある教育や生きる力を育てる教育は絵に描いた餅になる。

仏に魂を入れるために教師はまず、バランス感覚を持つことが大切である。例えば、個と全体、心と形、心と体、時間と空間、特殊と普通、流行と不易等の感覚である。教育はこれらのバランスの上に成り立っている。

教育は「教えること」と「育てること」の二面性をもっている。言い換えると「形」と「心」のバランスである。教えることは「形」であり、育てることは内面からの気づきによって達成される部分で、「心」に当てはまる。そうは言ってもこの形と心が教育の中で完全に分離して存在しているのではない。形と心は互いに必要としている関係であり、互いに高め合っているのである。したがって、どちらかが重要で、どちらかが重要でないという問題ではない。バランスの問題である。

しかし、現在の教育はこのバランスが崩れている。これまで知識の詰め込み主義教育が「教える」ということとイコールにな

り、その反省から、教えること、つまり「形」の部分が罪悪視されるようになってしまった。そのため学習は強制ではなく、本人のやる気や楽しさが強調されるようになった。「教育は学習者が主体性をもってやらなければ効果がない」とか「嫌いなことはやらないのも個性の一つ」等と言う考えも出てくるようになった。育てる部分が



千代田区立番町小学校校長  
同 幼稚園長  
青木 靖

肥大化し学習者の意欲の喚起が中心の学習となってきた。

個性尊重教育、子ども主体の教育、教師は指導ではなく支援であると言った考えが拍車をかけた。

その結果、子どもの自由な行動が尊重され、規律教育が敬遠された。嫉や善悪の判断、規範意識、耐性などがことごとく欠落

していった。現在のいじめ、不登校、非行、学級崩壊などは起こるべくして起こった現象と受け止めている。

「形」の教育、つまり「教える」ことをもつと大切にしなければならぬのではな

いか。日本の文化は「道の文化」と言われるように、柔道、茶道があり歌舞伎や能・狂言にも形がある。日本人の感性は「形」によって受け継がれ、洗練されてきた。和歌の世界も三十一文字という制約された形の中で五七五七七のリズムを生み出した。礼儀作法も、立ち振る舞いに守るべき形を定めている。日本人が家庭教育で重んじられてきた躰も、身体の姿・形を美しくすることによって、心を育てようという教育原理が背景にある。

基本的な立ち振る舞い、堪え忍ぶことの尊さを、気づかせるのではなく、「形」を定めることによって体で教えるのである。「教えることは徹底して教える」とことごと「子どもにじっくり考えさせ、気づかせる指導」のできる教員こそ、仏に魂を入れる教員なのである。

あおき おさむ  
千代田区立小学校長会長

## きょういく

# 随想

## 編集後記

今年の夏は暑い日が続きました。激しい雷雨も多かったように思います。何か気候が変ですね。地球温暖化の進行の影響なのでしょう。

季節はいつの間にか移り変わって、読書の秋、芸術の秋、そしてスポーツの秋となり、9月15日からオリンピックが開催されます。毎回多くのドラマが生まれています。20世紀最後のオリンピック、シドニーではどんな感動が待っているのでしょうか。

また、10月1日、全国一斉に国勢調査が行われます。国勢調査は世界各国で実施し、多くの国が2000年という世紀の変わり目に行われるようです。この調査の基礎データにより、21世紀が住みやすくなる社会になるといいですね。

さて、今号では、「中学校教育検討会報告」を紹介しました。21世紀に生きる子どもたちにとって、夢と希望を育てる魅力ある中学校の創造に努力していきたいと思えます。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしております。

教育広報「かけはし」第四十八号  
平成12年9月13日発行  
編集発行/千代田区教育委員会  
〒102 8688 千代田区九段南 1-6-11  
☎(3264)0151 内3114